

平成27年度 学校評価表(安来高等学校)

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

評価計画						自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策	
校訓	教育目標	重点目標	目標達成のための方策	担当 分担	評価指標	目標値	評価値	達成 指数	評価	結果と課題	評価		委員からの意見等
I きびしく自らを律し	1 基本的な生活習慣の確立と、自主・自律の人格育成	生徒の基本的な生活習慣を定着させ、自主性、社会性を強化し、人格形成に資する文武両道を実現させる	朝の立ち番による挨拶・遅刻防止指導、頭髪・服装検査、登下校交通マナー指導等を通して、規則正しい生活習慣及び校則を遵守する精神を育成する	生徒指導	服装・頭髪・挨拶の指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.4	3.3	97.1	B	挨拶は向上したが、服装指導については基準を明確にして、共通理解をもって取り組んでいきたい。	B	生徒の挨拶はおおむねよいように感じる。	生徒会委員会による挨拶運動を次年度も継続し、向上を図りたい。
			諸行事を成功に導くため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を定着させる	生徒指導	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じている評価値(生徒・保護者)	3.8	3.5	92.1	B	生徒は概ね意欲的に取り組んでいる。さらに意欲を引き出すために、生徒会執行部がスケジュールを意識した取り組みとなるように配慮する必要がある。	B	体育祭などを見ると生徒の活気が感じられる。引き続き指導をお願いしたい。	生徒会執行部からの提案がみられるようになってきた。企画段階から生徒の意見集約ができるよう引き続き取り組みたい。
			携帯電話・スマホ・インターネットなどの使用について、生徒の情報モラルを向上させる	生徒指導	一年生対象の情報モラル教室の開催	2回	2回	100	A	昨年度に引き続き、本校教員による指導をちゅうしんとしたことにより、適切な時期での開催ができ、効果が上がったと受けとめている。	A	今後も指導をお願いしたい。	平成28年度も入学予定者説明会で直接保護者に理解を求めるとともに、HRに位置づけ、恵贈的に指導できるように取り組む。
			保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	保健相談	保健室が発する健康情報が参考になると感じている評価値(生徒)	3.2	3.2	100	A	SCに関する情報機会を昨年度より増加させた。生徒サポート会議が情報交換のみに終わらないよう取り組みたい。	A	生徒の支援に関する取組の周知は地道に行うことで効果が生まれると考える。数多く情報提供に努めたい。	生徒サポート会議の充実に取り組みたい。
			学習記録帳、学習時間調査を踏まえた綿密な面談を行い、2年3学期までに家庭学習の習慣を付けさせる	教務	11月の学習時間調査の結果から1週間の学習時間が1200分を超える割合(生徒)	40%	36%	90	B	課題など与えられた学習だけにどまっている状況が見られる。生徒が自立的に学習態度を育成する取組を引き続き行ってほしい。	B	学習習慣の定着に向け具体的な取り組みを行い、中学校への発信を行ってほしい。	各教科の重点目標を「自立的な学習態度を育む」三年間を見通した指導として取り組んでいく。
	2 自ら学ぶ態度の育成と、学習指導の充実・強化	授業を充実させるとともに生徒に自学自習力を付けさせ、確かな学力を獲得させる	学習時間調査や定期試験、課題テストの結果を部活動顧問と共有し連携を図る	教務	部顧問と共有できたと感じた評価値(教員)	3.5	3	85.7	B	校内LANIによる情報共有に取り組み、成果を上げている教科もある。より改善に取り組んでいきたい。	B	連休時の課題の調整など、意識して取り組んでほしい。	システムに加え、部顧問と担任、教科担任の個別の情報共有を図るよう、部顧問会などで強調していきたい。
			主体的な学習態度を育成する	教務	十分な学習時間が確保されていると感じた評価値(保護者)	3.5	2.7	77.1	C	保護者評価は向上したが、学校への信頼感を高めるためにも、学習時間の確保に向けてさらに力を注ぎたい。	C	改善の傾向にあることは喜ばしい。課題の精選を検討し、メリハリをつけることが必要ではないか。	各教科の重点目標を「自立的な学習態度を育む」三年間を見通した指導として取り組んでいく。
			各種行事を成功させるため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を支援する	生徒指導	生徒の主体的な活動に支援していると感じている評価値(生徒・保護者)	3.8	3.5	92.1	B	学年部の企画を新たにしたが、生徒が主体的に取り組む、盛り上がりを見せたことが評価につながったのではないかと考えている。	B	生徒が充実感を感じている姿は地域から見ると頼もしく思える。より充実させることを期待する。	生徒に見通しをもたせ、短期間の準備期間で知恵をしぼる環境のもとがんばらせた。
	II 目標と信念を高く持ち	3 ハイレベルの文武両道。目標高く邁進する生徒と教師	部活動顧問と連携し、生徒が学習との両立を目指すことができるよう支援する	生徒指導	文武両道を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.2	91.4	B	学習への取り組みに不満を感じている保護者の意見もあり、両立に向け、部顧問と担任などの連携を図る必要がある。	B	部活動の振興は志願者増に向けて重要である。勉強との両立は難しいことではあるが、できることから取り組む必要があるのではないか。	課題テストのスケジュール共有に加え、課題の調整も行い、メリハリをつけた学習となるよう取り組みたい。
			部活動加入率を向上させ、地域と連携した活動と上位大会出場を推進する	生徒指導	部活動に加入している割合(生徒)	95%	90%	94.7	B	全体的にも高い数値となっているが、部員数が少なく活動の継続が難しい部も出てきている。	B	部活動は学校の魅力アップに大切である。指導者の確保が大切だと思うので、外部指導者の活用を継続的にかんがえられたらよいのではないか。	昨年度部活動再編方針を定めたので、方針にもつづき、適正な部活動数を保ってほしい。
上位大会出場数(男女)(全国総体・国体・全国選抜)			生徒指導	強化指定競技以外の男子ソフトボール部や、新聞・囲碁など文化系の部活動がしてくれている。	15	10	66.7	C	成果を効果的に広報する必要があるのではないか。	C	大会成績をHPに迅速にアップした今年度の取り組みを継続したい。	テニス・ソフトテニスで中学校への動員を強化したい。	
人権意識を基盤とした個に応じた進路保障を推進する			進路指導	個に応じた進路指導がされていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	88.6	B	補習の在り方を工夫し、生徒が達成感をもてるように取り組んだ。手応えがあるので継続していきたい。小論文については、継続的に検討していきたい。	B	きめ細かな指導に取り組まれていると感じる。このような活動こそ広報が必要である。	記述力、計算力など基本的な学力の底上げを3年間をみとおして取り組むことにより、生徒の進路実現に取り組んでいきたい。	
5 生徒の学力向上と教員の指導力・授業力向上	4 学校全体が動くキャリア教育と、その成果としての進路希望実現	保護者、地域、大学等との連携によるキャリア教育の充実させる	進路指導	キャリア教育が進路決定や文理選択に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.2	91.4	B	県外大学、職業人講話などを継続した。先端的な学問に取り組んでいる大学教授の講演への反響がおおきかったため、今後も検討していきたい。	B	地元企業への見学機会ができたことはよい傾向だと考える。	安来市と連携して地域産業への理解を進めていきたい。	
		授業を充実させるとともに生徒に自学自習力を付けさせ、確かな学力を獲得させる	教務	2学期授業アンケートの評価値(生徒)	3.5	3.45	98.6	B	1学期と比較して2学期には評価が向上している教員が多く見られた。全体的に評価が高い印象があるので、よりよい授業にするためのアンケートであることを生徒に強調し、より実効性のあるものとしていきたい。	B	生徒の評価をえることは重要である。加えて中学校や他校の先生の参観も有効ではないか。	わかりやすさだけでなく、生徒が考える授業作りに取り入れるよう教科会の目標設定を行う。	
		各教科、分掌との連携による基本的な学習習慣の定着させる	進路指導	個々に応じた適切な学習指導ができていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	88.6	B	昨年度より早い時期に検討会を行い、生徒への返しも行えたと思う。模試の分析については十分に行えなかった。	B	担任だけだと大変だと思う。早い時期の検討会は効果的だと考える。	検討会の成果を生徒保護者への的確な返しを学年部で行っていく。模試分析については、教科主任会を利用し、定期的に行う。	

6 確たる人権尊重の意識を持ち、自らを大切にし他者を思いやる心の育成	自他を尊重する生徒の育成「美しい人間性と人間関係の形成」	生徒一人一人が自己肯定感を持って学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を持ち、適切な指導・助言を行う	人・同 教推	人権を尊重する意識を育てる指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	88.6	B	キャリア教育、道徳教育、人権同和教育の指導計画を一体化し、取り組みが日常的になるように取り組んだ。その趣旨が浸透するようさらに取り組みたい	B	人権意識は人間関係の根本である。学校の取り組みをお願いしたい。	キャリア教育、道徳教育との関係性を教職員がより理解できるよう研修に努めていく
	生徒、教職員の人権意識を高め、地域との連携を深める	人権・同和教育に関するLHRと校内研修を開催し、個々が自分の在り方を振り返る機会を設ける		学校活動で人権を意識して行動する場面があったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.2	91.4	B	平成27年度も発達障害など教員研修を実施し、教員の資質向上に努めている。	B	同上	計画的に研修を実施していく。
		地域の実態を理解するために、小・中学校、行政を含む地域社会との情報交換、交流に努める		小中学校や地域での勉強会に参加した教員数	30名	11名	43.8	C	中高連携を進める会を初開催した。具体的な計画のもと参加を促していききたい。	C	小中の姿をみることも、高校での学習を発信することは効果的である。オープンスクールだけでなく、是非教科での取り組みも進めたらどうだろうか。	C
7 開かれた学校作りと家庭及び地域連携	開かれた学校づくりに向けた広報活動の充実	HP・文書により学校の情報を効果的に行う。	総務	HPの月の更新数	15	15	100	A	計画通り実行できた。	A	HPによる発信は学校への信頼感の向上に繋がっている。継続的な取り組みをお願いしたい。	総体結果迅速なアップに取り組んだ。年間を通じた取り組みとなるようさらに声かけを行っていききたい。
				本校からの文書連絡は、保護者に届いていると感じている評価値(保護者)	3.5	3.4	97.1	B	HPに文書をアップし、保護者が確認できるよう努めているが、効果については把握していない。	B	ピンク紙での配布が効果的だと感じている。	メールは緊急時を想定している。文書のわかりやすさ、適切な発行時期に努めていく。
				奨学金制度の情報提供が適切に行なわれていると感じている評価値(保護者)	3.5	3.1	88.6	B	学生支援機構以外の奨学金の情報提供も確実に実施した。今後も継続したい。	B	さらなる工夫をお願いしたい。	3年対象の説明会を全校対象とし、説明機会を確保したい。
	PTA・中の海会・その他諸団体との連携による学校教育に対する信頼の醸成	PTA諸活動の内容を検討し、広報活動を通してPTA会員に理解を求め、会合や各種活動への参加率を上げる	PTA総会の出席率(保護者)	25%	19%	76	B	保護者の希望をアンケートで把握し、総会のみ開催としたが出席率向上につながらなかった。	B	以前からの課題である。会員の働きかけが大切だと思う。	再度アンケートを実施し会員の意向の把握に努めるとともに、役員の方からの働きかけをお願いしていききたい。	
			PTA清掃ボランティアの総参加者数(生徒・保護者・教員ほか)	100名	73名	73	B	清掃ボランティアが連休半ば開催となり参加者が例年より少なかった。	B	PTA役員会に判断を任せたらどうだろうか。	役員会の意向をもとに時期、内容を決定していききたい。	
8 豊かな情操の涵養と、環境美化意識の徹底	保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	朝の健康観察・欠席者集計による生徒の状況把握と教職員への情報提供を徹底する	保健相談	健康診断や保健室利用が、健康の保持・増進に有効だと感じている評価値(生徒)	3.5	3.4	97.1	B	計画通り実施できている。	B	引き続き取り組まれることを期待する。	サポート委員会を有効に活用していききたい。
	図書館利用のための広報活動の強化	全教職員の協力を得て、広報紙を作成する	図書情報	図書館の広報が有効だったと感じている評価値(教員)	3.5	3.4	97.1	B	計画通り発行できた。	B	読書は一生の楽しみとなる。工夫をしてもらえるとうれしい。	本年度は中国大会出場であったビブリオバトルで次年度は全国大会を目指したい。
	校舎と校地の安全・安心な環境づくり	危険箇所を察知し早急な処置を行い事故などを発生させないため、日常の見回りや天候を行うとともに、安全点検などをもとに修繕計画を立て施設整備の修繕を計画的に行う。	事務	人身事故発生件数(生徒・保護者・教員)	0件	0件	100	A	学校設備が原因の人身事故は発生していない。	A	老朽化は避けられない。点検が必要ではないか。	必要に応じて、県に修繕を要求していききたい。